

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

発生予察特殊報第 1 号

病 害 虫 名 クビアカツヤカミキリ
Aromia bungii (Faldermann)
作 物 名 ウメ
発 生 地 域 綾部市

1 発生経過

- 令和 7 年 7 月、綾部市のウメにおいて、本種雄成虫 1 頭が捕獲され（写真 1）、近隣のウメから本種によると考えられるフラスの排出が認められ（写真 2）、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所に成虫及びフラスの同定を依頼したところ、本種による被害であると確認された。
- 府内では、令和 6 年に京都市、福知山市、向日市のサクラにおいて本種成虫の発生を確認しており、果樹園で本種による被害が確認されたのは、今回のウメでの発生が初めてである。
- 本種は、2012 年に国内で初めて発見されて以降、16 都府県で発生が確認されている。

2 形態及び生態

- 本種成虫は胸部が赤く、体は黒くツヤがあるカミキリムシで、体長は 2～4 cm である（写真 3）。
- 成虫は、一個体あたり平均 300 個（最大 1,000 個）の卵をサクラ、ウメ、モモ等、主にバラ科樹木の樹皮の割れ目や隙間に産卵する。
- 幼虫は、産卵から 2 年後の 5 月から 8 月頃にかけて成虫となり、幹の外へ脱出する。

3 被害の特徴

- 幼虫は、サクラ、ウメ、モモの樹幹や根元からミンチ（うどん）状の明るい色のフラス（木くずや糞が混ざったもの）を排出する（写真 4）。
- フラスは 削り取ったような、大きさの揃った薄い木片を多く含む。
- 幼虫が幹や枝の内部を食い荒らし、樹勢を低下させ、やがて枯死させる。

4 防除対策

- 本種は特定外来生物法により生きたまま持ち運ぶことは禁止されている。成虫を発見した場合は、その場で直ちに捕殺するとともに、病虫害防除所または農業改良普及センターに連絡する。

- (2) 羽化した成虫の飛散防止や新たな産卵の防止のため、成虫活動期の6～8月に被害樹の株元から高さ2 m程度の高さまで、4 mm目合いのネットを巻き付ける(写真5)。
- (3) 成虫に対して成虫活動期の6～8月に、主に幹や枝を狙って農薬(表1)を散布する。
- (4) 幼虫に対しては、フラス排出期(4～10月)に千枚通しや針金等を食入孔に入れ、中のフラスをかき出してからスプレー型の農薬を注入する。針金が幼虫まで届く場合は、突き刺して殺虫すると確実である。千枚通しで樹皮をめくり、掘り取って殺虫することもできる。
- *詳細は「クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル(第1版)」(京都府、令和6年8月)を参考にする。



写真1 捕獲した雄成虫



写真2 捕獲した本種によるフラス



写真3 成虫(左:雌、右:雄)



写真4 幼虫が排出するフラス



写真5 成虫分散防止のネット巻

表1 クビアカツヤカミキリに登録のある農薬（令和7年7月15日現在）

IRAC コード *1	農薬名	作物名	希釈倍率・ 使用量	散布流量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
1A	オリオン水和剤40	うめ 小粒核果類(うめ を除く)	1000倍	200~700L/10a	成虫発生期 但し、収 穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
		もも			成虫発生期 但し、収 穫14日前まで	2回以内		2回以内
1B	スミチオン乳剤	うめ	1000倍	200~700L/10a	成虫発生初期 但し、 収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
		もも			成虫発生初期 但し、 収穫3日前まで	6回以内		6回以内(樹幹処 理は1回以内)
3A	アグロスリン水和剤	もも	1000倍	200~700L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
	ベニカカミキリムシエア ゾール*2	うめ	-	-	収穫前日まで	5回以内	樹幹・樹枝の 食入孔にノズ ルを差し込み 噴射	8回以内(噴射は5 回以内、散布は3 回以内)
		もも						10回以内(噴射は 5回以内、散布は5 回以内)
	ロビンフッド*2	うめ	-	-	収穫前日まで	5回以内	樹幹・樹枝の 食入孔にノズ ルを差し込み 噴射	8回以内(噴射は5 回以内、散布は3 回以内)
もも		10回以内(噴射は 5回以内、散布は5 回以内)						
4A	アクタラ顆粒水溶剤	うめ 小粒核果類(うめ を除く)	2000倍	200~700L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
		もも			収穫前日まで	3回以内		3回以内
	ダントツ水溶剤	うめ	2000倍	200~700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		もも			収穫7日前まで			
	ベニカ水溶剤	うめ	2000倍	200~700mL/m ²	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		もも			収穫7日前まで			
モスピラン顆粒水溶剤	うめ 小粒核果類(う め、すももを除 く) もも	2000倍	200~700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
14	バダンSG水溶剤	もも	1500倍	200~700L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
21A	ハチハチフロアブル	もも	1000~2000倍	200~700L/10a	成虫発生期 但し、収 穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
22B	アクセルフロアブル	うめ	1000倍	200~700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		もも類	100~200倍	5~200L/10a		2回以内		
			1000倍	200~700L/10a			散布	
28	テッパン液剤	小粒核果類 もも	2000倍	200~700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
未	バイオリサ・カミキリ*2	果樹類	1樹当り1本	-	成虫発生初期	-	地際に近い主 幹の分枝部分 等に架ける。	-

*1 殺虫剤コード。有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号で、本コードが異なる薬剤を使用すると、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができ
る。

*2 適用病害虫名：カミキリムシ類

注) 農薬の使用に当たっては、ラベルやインターネット等で最新の使用方法や注意事項を
確認してください。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使
用回数についても注意してください。